

学びの灯

ようこそ、広島都市学園大学 子ども教育学部へ

子ども教育学部には、様々な研究をされている先生方がいらっしゃいます。

このページでは、毎月、一人一人の先生方の思いや考え方などを記していただき、読んだ皆さんの心や頭に「学びの灯」をともします。

一つ一つの「灯」は、いくつか集まると、きっと大きな明るさとなり、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

また、ある「灯」は皆さんの拠り所となって、どんなときであっても、希望と温かさを保ち続けてくれるでしょう。

さらに、皆さんが「新しい灯」をともし、多くの人々の未来を明るく照らすことに役立つことでしょう。

さあ、今月は、どんな灯でしょうか？



「スケジュール帳」と「PDCA サイクル」と「来年の自分」

子ども教育学部 学部長

杉山 直子

手帳が、広い場所をとって書店や文具店で販売されるようになって久しい。かわいいキャラクターもの・実用的なもの・・・「手帳派？それともスマホ派？」「仕事が良くできる手帳の使い方」など、手帳の活用をテーマとする雑誌も増えた。「来年の自分」をイメージして、選ぶのもワクワクする。お気に入りを手に入れることも、自分の運命試しのようでもある。



中学3年生の時、父親から余ったからと、私は仕事用のスケジュール帳を一冊もらった。中学校から配布される「生徒手帳」が、中学生にとっての唯一の手帳であった時代である。可愛くもない黒いカバーで、毎日の予定を30分毎に書き込めるスケジュール帳は、大人びた気持ちをくすぐり、自己管理という背伸びをしたくなるものであった。

それまでも、中間試験・期末試験などの際には、全領域マスターすることを目指して、綿密な計画を立ててはいた。全部を網羅した計画を立てて、自分が優等生になったような気になったりもした。しかし、自分が遂行するには、非現実的なスケジュール。小さな狂いに修復不可能状態になることがしばしば。

しかし、父親からもらったものは、仕事のスケジュール帳なので勤務時間を効率的に活用するような書式であった。これまでの失敗から己の傾向を知り、繰り返し行うようにスケジュールを立て、こなしたらチェックを入れ、微調整できる余裕も入れて・・・そうして臨んだ試験。やはり、結果はかなりの出来。普段は、学校行事や部活そして友達との時間を大切にきて、十分に勉強をしていたとはいえなかった自分であるが、その後は「やるときはやる」ではなく「やるときはやり切る」を実行できていった。

管理業務の手法の一つである「PDCA サイクル」という言葉が、様々な領域で用いられるようになり、ドンドンと広がり、教育の領域でも用いられるようになってきた。P (Plan 計画)—D(Do 実行)—C(Check 評価)—A(Act 改善)の4段階を繰り返すことで、継続的な改善を目指すものだ。言葉は知らなくても、よりよいものを目指して、仕事を行ったり、研究をしたりして、「何かをやり切る」には、長期的・短期的を繰り返し、無意識的に行っていることだ。

今年もあとわずか。「来年こそ、なりたい自分になれますように。」と祈るだけでなく、「なりたい自分を目指して、自分を創る」ことを目指してみよう。スケジュール帳に「外からの予定」を入れるだけではなく、「自分づくりのために内からの予定」を入れよう。そして、自分なりの「PDCA サイクル」を書き込んでみよう。高みを目指して。

学校で学ぶ時期は、きっと、こうしたことを学ぶ時期なのだと私は思う。